



備えあれば憂いなし！～防災週間に寄せて～



毎年、8月30日から9月5日は「防災週間」です。今年も防災訓練や防災知識普及のための催し等が、地域住民や関係諸団体の協力の下に各地で行われました。



さて、ある学校で、令和6年1月に発生した能登半島地震後に、自宅から外出できなくなったお子さんがいました。大きな揺れの恐怖、平穏な暮らしが突然に奪われてしまうような喪失体験、さらには、余震や今後の暮らしへの不安等が大きな渦となって心に深く刻まれてしまったのかもしれない。

担任の先生はじめ学校の先生方は、家庭との連携を密にしながらお子さんの心情に寄り添い、安心感を取り戻せるような支援を根気強く続けました。その結果、お子さんは元気に登校できるようになったそうです。

想像もしていなかった不安や悲しみに直面したとき、私たち大人は、ネガティブな感情を紛らわしたり、ポジティブな感情を取り戻したりするための手立てを知識や経験を通して身に付けています。しかし、子供たちは、どうしていいか分からず、大人に心の支えを求めていることが多いのではないのでしょうか？

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所では、地震後に学校等で子供に関わる際に配慮したいことについて、発達障害のある子供への対応を中心にまとめたハンドブックが作成されています。必要に応じてダウンロード、印刷して活用してください。

特総研 震災 ハンドブック



また、同研究所 HP「災害時における障害のある子どもへの配慮」には、障害のある場合に共通する配慮と障害種別の配慮とに分けて要点がまとめられています。その共通する配慮の中に挙げられている**平常時から準備しておくべき大切なことは、以下の3点**です。

- 1 障害の理解と対応と校内の支援体制
- 2 地域の支援ネットワークとの連携
- 3 個別の教育支援計画や「サポートブック」等の作成と活用

お気付きのように、これまで先生方が構築してきた日常的なチームワークと支援が、いざという時の備えになるのです。

<引用・参考>

- 「震災後の子どもたちを支える教師のためのハンドブック～発達障害のある子どもへの対応を中心に～」独立行政法人特別支援教育総合研究所、令和6年1月改訂版
- 「災害時における障害のある子どもへの配慮」独立行政法人特別支援教育総合研究所ホームページ